

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



November						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

November 2023 vol.115

りんそういん 林叟院

所在地：静岡県焼津市坂本

交通：JR 東海道本線「焼津」駅北約 3km

明応 7(1498) 年 8 月 25 日、南海トラフを震源とする M8 を超える大きな地震が発生しました。明応地震と呼ばれるこの地震は、震央は東海道沖とされ、被害は東海地方を中心に、京都・奈良、甲斐・相模にも及び、広範囲に津波が到達し、特に静岡県や三重県で大きな被害が発生しました。

静岡県焼津市坂本にある高草山林叟院は、文明 3(1471) 年の創建で、当初は当時の海岸線に近い小川の地にありましたが、明応 6(1497) 年に山深い現在の地に移転し、翌 7 年の明応地震による津波の被害を免れました。林叟院にはこの移転にまつわる伝説が残されています。

『林叟院は文明三年創立以来、早くも二十七年の星霜（年月）を経て明応六年を迎えた。ある日異叟 - 普通とは異った僧 - が林叟院を訪れた。異叟は賢仲禅師（開山）と談笑したが、あたかも長年交際した友達のように親しかった。賢仲禅師がときどき目を上げて異叟を見ると、顔色には威厳があって、眼光は人を射るようであるが、言葉は軟らかくて、しかも低い声であった。この時異叟が顔色を正して言うには、惜しいことにこの地は厄難がある。願わくば尊師よ、私の言を信じて、移転するのがよかろうと忠告した。賢仲禅師は、その言葉を不思議に思ったが、異叟をつれだつて適地を探すため、門を出た。足は自然と高草山麓に向かっていた。杉や松の密林の中を進んで、山の曲がり角に出た。

異叟が立ち止まって、指差して言うには「此の処こそ寺として最適の地である、もし此の言を信ずるならば私は師

のために永く護法の山神になろう」と告げた。賢仲禅師が首を廻して、四圍の状況をみるに寺を建つには絶好な土地であった。賢仲禅師が欣然として振りかえると異叟の姿は無く一片の石を遺すのみであった。師は護法の神であることを信じて、合掌低頭して帰院した。事の次第を法永居士（開基）に告げ、間もなく寺をこの地に移し、林叟（林叟院の旧名）を改めて林叟とした。（中略）

果たせるかな、翌明応七年八月には大雨があり二十五日は大地震、駿河の海は津波が起つて異叟の予言通り、林叟の旧地は海となった。』（以上、林叟院五百年史を一部修正）

林叟院の旧地は焼津市小川の会下之島（現在の小川港付近）、境内は今の波打際より 500m 程の海中にありました。小川町誌には、「林叟院開創当時の波打側は、寺院を海岸直ぐ近くに建立するとは考えられない故まだ遙か先であったに違いない。」とあり、明応地震までは、海岸線は現在よりもかなり沖にあったと考えられます。

こうして林叟院は、異叟の忠言によって明応地震の津波被害を逃れ、その後は現在の地に諸堂が整い発展を遂げ、旧観に勝るようになりました。異叟が忠言した場所には、いまま山神血脈石と彫られた碑が残されており、林叟院により大切に守られています。



山神血脈石
（出典は下記）

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 (http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=15) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●^{ほうしゃくいん}宝積院 (vol.19,2015.11)

所在地：南知多町内海北向

交通：海っ子バス「大井戸」停東約100m

南知多町は愛知県の二つの大きな半島の西側、知多半島の先端にある町で、観光業や水産業がさかんです。半島の先端に位置することから、地震の際に津波が襲来する恐れのある地域が広がっており、愛知県が公表した被害予測調査においても、20分程度で高さ30cmの津波が到達し、最大7-10mに及ぶ可能性があることが示されています。

この南知多町内海に、曹洞宗の宝積院というお寺があり、嘉永7(1854)年の安政東海地震の際に、敷地の入口まで津波による浸水があったという記録が、郷土研究誌みなみ第50号に掲載されています。

記事では『同日(嘉永七寅十一月四日)四ツ時(午前10時)より津波押来る 内海二而大汐満上りより七尺位高満

致候(大潮より7尺ほど高く満ちた)』『東端村町内へ津波押込候所、慈光寺坂下より宝積院脇入口迄(東端村の慈光寺の坂下から宝積院の脇入口まで津波が押し寄せた)』とあります。また、この前段には『嘉永七寅十一月四日朝五ツ半時(午前9時)大地震 東端村 無難 利屋村・岡部村 同断(無難)』などとあり、午前9時ごろに地震による揺れがあり、約1時間が経過した後の午前10時ごろに津波が襲ってきた、ということがわかります。

このように、揺れを感じてから、その揺れが小さくても、海岸線に近い場所では、やがて津波が襲ってくる可能性が高いことを十分に頭に置いておく必要があります。海辺にでかける際には、避難ルートをチェックしておくなど、事前に少し準備をしておきましょう。

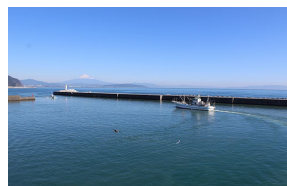


◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.11 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★^{こがわ}小川港さば祭り

小川港は全国有数のサバの水揚量を誇り、水揚量の約8割をサバが占めています。毎年11月の第1土曜日に、小川港特産のサバの魅力を紹介する、小川港さば祭りが開催されます。(2020年から2023年は休止中)

祭りの魅力はなんといってもこの時期に脂がのるサバで、100mにも及ぶ焼き網を並べたU字溝の上で、1枚ずつ丁寧に炭火焼きにした小川港産の新鮮なサバ1万食が無料で振る舞われます。この他にも、水産品即売会や焼津を食べ尽すセット「やいづ3漁協セット」、小川港特製「さばチキン」などの限定販売、静岡県調査船「駿河丸」の一般公開、焼津の街並みや海岸沿いの壮大な景色を眺めるヘリコプターの遊覧飛行(有料)体験などが催されます。



小川漁業協同組合 HP より

～ハイキングで巡る～

^{たかくさやま}林叟院のある高草山は、標高501m、低山で日帰りで楽しめる山で、ハイキングコースが整備されており、シーズンの休日は多くのハイカーで賑わいます。山頂から見る茶畑越しの焼津市内や駿河湾の景色は格別です。



焼津市観光協会 HP より

また、車で登っていくこともできる夜景スポットにもなっており、焼津市や藤枝市、焼津港などのパノラマ夜景が一望できる人気のスポットになっています。

●ブレイクタイム●

♪小川港魚河岸食堂

小川港魚河岸食堂は、小川魚市場の魚仲水産加工業協同組合小川支所の建物内に、市場で働く仲買人や関係者のために設けられた食堂で、一般の方の利用も可能です。地元で採れた旬の魚がドッサリのった人気No.1の海鮮丼や、駿河湾の幸が満載の駿河定食など、魚河岸食堂ならではのメニューが提供されています。午前7時から営業していますので、早朝に訪れれば、ひと仕事終えた市場関係者の雰囲気を感じることができます。(営業は午後2時まで、土曜は朝10時から)



焼津市魚仲水産加工業協同組合HPより

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減済の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年11月)